

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

- 1 日 時 令和4年10月29日(土) 13時から15時
 2 場 所 瑞豊館 農事研修室
 3 出席者 13人(八戸学院大学 学生1人、地域関係者12人(民生委員、町内会))

4 開催概要

(1) 話題提供

「八戸市の高齢者に関する情報提供」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 主査 山口 誠

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

(2) アイスブレイク

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 助教 米田 政葉 氏

○「実は私は〇〇なんです。」などのエピソードを加えた自己紹介を一人1分ぐらい行った。

(3) グループワーク

テーマ「豊崎地区における高齢者の見守り体制について考える」

①豊崎地区における高齢者の見守り体制の現状

②課題の整理

③課題の改善策

(4) 各グループから意見交換

意見交換の概要は次のとおり。

豊崎地区における高齢者の見守り体制の現状
<p>○豊崎地区は昔から近隣付き合いが長い傾向にあり、また農家をしている高齢者も多い。</p> <p>○一人暮らし高齢者が隣同士でお互いに気にかけて生活している。</p> <p>○隣に住む方が、一人暮らしの高齢者だったので、亡くなるまでおかずなどを持参して、よく顔を見にいていた。</p> <p>○民生委員や町内の方から気になる高齢者の情報を得ながら訪問している。</p> <p>○回覧板を届ける他に、気になる高齢者がいれば本人と話したり、家の中の様子をみている。</p> <p>○町内会活動の集まりの中で、情報共有をしている。</p> <p>○コロナ禍の中では、電話をして見守り活動をしている。</p> <p>○老人クラブ、高齢者サロンなどの集まりを通じてお互いに見守り活動をしている。</p> <p>○消防団が月2回の見守り時に、車の移動の形跡や家の明かりの状況により見守りしている。</p> <p>○小・中学校と連携して防犯活動の中で地域を見守りしている。</p> <p>○散歩などの日頃の生活の中で家の明かりが点いているかなどの「ながら見守り」をしている。</p>
課題の整理
<p>○高齢者宅を訪問しても警戒されて出てこなかったり、拒否されることがある。</p> <p>○気になる症状があってもその方の家族に伝えにくい。</p> <p>○同じものを何回も食べているなど一人暮らし高齢者の栄養面が心配。</p>

- 高齢者サロンには女性が多く集まり、男性が少ない。
- 高齢者が多い。親戚が近所にいない場合には草刈り、除雪、買い物が大変。
- 高齢者の異変を感じた時には、町内会、民生委員、高齢者支援センターへつなぐ

課題の改善策

- 見守りネットワークの活動を通じて高齢者の見守り体制を進めていく。
- 高齢者の雪かき、除雪などの困りごとは、民生委員、町内会、高齢者支援センターハピネスやくらが相談窓口となり、消防団が雪かき、除雪などの対応が可能か見守りネットワークの中で検討してみる。

5 今後の取組

- 豊崎地区は、下七崎町内会と池田町内会において高齢者見守りネットワークが新規に立ち上がった。立ち上げに向けた話し合いや日頃からの連携の中で町内会、民生委員、消防団、高齢者支援センターハピネスやくらの支援団体の関係性が良い。見守りネットワークの活動を通じて高齢者の見守り体制を進めていく。また、下七崎町内会と池田町内会を参考モデルとし、高齢者支援センターハピネスやくらが、高齢者見守りネットワーク新規立ち上げに向けて他の町内へ協議することを継続する。